

ネットワーク

平成27年 3月
 発行 下都賀地区生涯学習研究会
 事務局 下都賀教育事務所
 ふれあい学習課内
 Tel 0282-23-3422
 Fax 0282-23-3502
 Mail: shimotsuga-kyouiku
 @pref.tochigi.lg.jp

今年度も残すところあと僅かとなりました。今年度から「地域連携教員」が設置され、例年以上に社会教育主事有資格者の視点が必要とされた1年であったのではないのでしょうか。

現在、連携や協働をとおして解決を図る事例が数多く見られます。つまり、私たちの身近には容易に解決できないことが多々あるということですが、そのような時こそ、社会教育主事有資格者の視点で人と人をつなぎ、知のネットワークをもとに諸問題の解決に向けて取り組んでいきたいですね。今回も、数多くのお便りが寄せられています。ぜひ、紙上をとおして皆さんとつながっていきましょう。



シリーズ「事例から学ぶ44」 「下野市子ども未来プロジェクト」

下野市立南河内第二中学校 教諭 星野 友保

下野市では小・中学校がそれぞれの中学校区で「子ども未来プロジェクト」の活動をしています。各生徒会が定期的集まり「輝く未来 溢れる笑顔」をテーマとし、小学校児童会とも話し合いを持ち進めています。

活動初年度、本校では「NHKいじめを考えるキャンペーン10万人の行動宣言」への参加、あいさつ運動、交流音楽集会、放送交流、二中校区児童生徒交流クリーン作戦の5つの活動を展開しました。まずは中学生がリードして小学生と一緒に活動することから始めました。一つの「かたち」ができました。

「地域（おとな）をどう巻き込むか。」生徒会の若い先生方が思案し活動しています。住宅街にある学校区で何ができるのか。学校から発信するだけでなく、地域と一緒に練り合うネットワークの構築が必要です。地域連携教員やスクールサポーターとも熟議して、継続できるプランとエネルギーで、さらなる「二中スタイル」を創り上げたいと考えています。



＜小学生と一緒に活動する中学生＞

シリーズ「事例から学ぶ45」 「地域のみなさまに支えられて十周年！」～放課後学習サポート事業～

壬生町教育委員会事務局生涯学習課 社会教育主事 鈴木 正俊

地域住民が無償の学習支援ボランティアとなり、進路や夢の実現に向けて学習に励む中学生を支援する放課後学習サポートが、お陰様で10周年を迎えました。本事業は、毎年11月から2月まで、壬生中、南犬飼中の3年生を対象に、放課後の空き教室を利用して行っております。今年度も11名の学習支援ボランティアが、ご協力くださり、生徒たちの質問に対して、優しく誠実に対応してくださいました。また、お互いのあたたかな交流も生まれ、参加した生徒にとっては、地域の力に支えられている自分を実感できた時間となりました。

【学習支援ボランティアの感想】

- ・単なる教科学習でなく、中学生との話し合いの中で、心の交流も出来たのではないのでしょうか。
- ・私立高校に合格し、受験勉強が不要となるも引き続き勉強したいと来てくれる生徒がいることを嬉しく思い、また放課後学習の意義を感じる。

【参加した生徒の感想】

- ・一人一人親切に教えてくださり、ありがとうございました。

【保護者の感想】

- ・ボランティアさんには聞きやすらしく、「教えてもらったら解けたよ。」と嬉しそうに話してくれると、こちらも嬉しいです。



＜活動の様子＞

リレー「となりの社教主事32」 「地域の持つ大きな力を実感する毎日」

野木町立野木小学校 校長 江田 裕之

10年ぶりに学校に戻り、私自身は、子どもたちの笑顔と素直な姿にすっかり元気を取り戻した。着任後は、連日のように地域の関係者がごあいさつに来てくださった。地域のことを何も知らない私にとって、まるで力強い応援団のように感じたものである。折しも、「地域連携教員」全校配置のスタートの年でもある。さしあたって、本校は何から着手していくのかについて担当と話を詰めた。『どの時期に、どのような方に、どのような協力をしていただいているのか。そして、これまでの取組を教職員で共有し、計画的に実践しよう。』この話し合いから、学校支援ボランティアの「見える化」作戦が始まった。作戦その一、「学校支援外部講師・ボランティア計画」が全教職員の手元に届き、会議室前には、今年度の実践の様子や協力者名が時系列に掲示された。作戦その二、力強い応援団長である地域コーディネーターを選任し、次年度の準備に取りかかり始めた。学校とボランティアとのWin-Winの関係が築かれることを願いつつ、新たなリストやボランティアルームの設置の検討を行った。地域へ出向く軽快なフットワーク、地域とともに強力なチームワーク、有益な情報が共有されるネットワークの重要性を実感する毎日である。(平成12年受講)

学校を応援したーい 7

「自然の家で『こんなこといいな！できたらいいな！』を体験しませんか？」

県立太平少年自然の家 指導主事 関口 幸治

太平少年自然の家も創立41年目を迎え、来所者数は130万人を超えました。宿泊学習や育成会の活動、スポーツ少年団の合宿など、県内はもちろん県外からも御利用いただき、皆様から「やさしくて親切な施設」と高い評価をいただいております。

さて、「自然の家って宿泊しないといけないの？」という質問を受けることがあります。そんなことはありません。今年度は、校外学習での大中寺のお話依頼、先生方の野外活動研修、遠足中の自然体験、職場見学など日帰りの活動にも御利用いただきました。もちろん、引率される方のアイデアを伝えていただければ、ねらいに沿った計画の相談、活動の支援をさせていただきます。さらに、私たちが出張して野外活動のお手伝いをさせていただいたり、野外炊事の道具や火の神の衣装をお貸ししたりすることも可能です。「自然の中でこんなことしてみたい」が頭に浮かんだら、まずは、お問合せいただきまして、日時や活動内容を御相談いただければと思います。皆様の御利用を心からお待ちしております。



<活動の様子>

雑感「人の縁とは」

下野市立薬師寺小学校 教諭 川島 啓

あの2011年(平成23年)3月11日に発生した東日本大震災から、既に4年の月日が流れようとしている。あの日は、私にとって娘の高校入学試験発表の日であった。今はその娘も大学に入り、縁あって福島で生活している。日々の生活に追われ、あの惨事も忘れがちな私に、福島の地はその様々な震災の傷跡から大切なことを思い出させてくれる。忘れもしないあの震災のあった夏に、私は初めて社会教育に出会った。「平成23年度社会教育主事講習」。私にはとても新鮮な驚きの日々であった。その中でも特に印象深いものは「無縁社会」に関する講義で、「私の母は痴呆症なのに、町の人たちが深夜徘徊を散歩として常に寄り添い病人扱いしない社会だった。」の言葉が思い出される。社会教育の重要性、縁の大切さ、そして何より「人」がいかに崇高なものであるか、今まさに胸に刻まなければならないと考えている。これからの社会教育を考えることは同時に自分が社会教育主事有資格者として何をしていかなければならないのかという命題を突き付けられる。縁あって、あの年に社会教育を学んだものとして、過去を振り返り未来に目を向けていければ幸せである。

第3回研修会報告

去る2月3日(火)、小山市生涯学習センターにおいて平成26年度第3回研修会を実施しました。今回は特定非営利活動法人だいじょうぶ理事長の畠山由美氏による講話及び、その内容を踏まえての協議「経済的な理由など、様々な問題に直面している子どもたち。その解決のために、それぞれの立場において、どのようにつながることができるのか。」をとおして「地域のネットワーク作り」の大切さについて考えを深めました。

参加者からは「地域全体で考えたい。」「当たり前と思っていたことができない家庭が多くあり、つながりをもって取り組んでいきたい。」等の感想が寄せられました。貴重な研修の機会になりました。



編集後記

「楽しかったわ。」「元気もらったわ。」「若返ったわ。」ボランティア終了後、地域ボランティアの方から、このような声がよく聞こえてくる。学校は、「若さ」のご利益がある“パワースポット”なのかもしれない。私も、「先生、若いですねえ。」と言われることがある。(自慢)それは、学校の子どもたちのおかげと感謝なくては…。このパワースポットへ地域の方がたくさん来られるような取り組みをこれからもさらに仕掛けていきたい。(委員長)